

2025年度 三大学における相互評価結果について

学 長 中井 伊都子
(内部質保証委員会委員長)

本学は、毎年の自己点検・評価の信頼性と妥当性を高め、内部質保証システムの一層の充実へつなげていくために、教育機関としての専門的な見地からの外部評価体制の整備を進めてまいりました。

2023年度より、旧制高等学校をルーツに持つリベラルアーツ五学園(学習院大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学、甲南大学)の中で、2016年度より実施されていた、成城大学と武蔵大学の相互評価に本学も参画し、三大学による相互評価を開始しました。

今年度は、評価校である武蔵大学からの書面評価案に基づき、対面での意見交換を行い、本学は、各学部・学環のディプロマ・ポリシーと教育課程の連関性について、別紙のような評価を受けました。

内部質保証委員会では、今回の評価結果を踏まえ、各学部・学環のディプロマ・ポリシーと教育課程の連関性の見直しに向けて、今後一層の改善を図ってまいります。

以 上

甲南大学に対する相互評価結果

I 総評

甲南大学の各学部・学環のディプロマ・ポリシー（以下、DPという。）とそれぞれの教育課程は、DPで定める知識・能力を習得するための学習の具体的目標である「到達目標」を介して、DP及び科目群とそれぞれ関連している。

到達目標ごとの達成状況をあらわす「学修度レーダーチャート」については、学修度の算出方法の変更や学修の目安となる目標値の表示により、大学として学修成果可視化の精度が向上するだけでなく、学生自身による学修成果の理解や計画的な履修を促進することが期待できる。

ただし、カリキュラム・ツリーに示されたDP、到達目標、科目群の関連はやや複雑である。

また、「学修度レーダーチャート」はDPに掲げる各知識・能力の修得状況そのものではない点に十分留意した上で、大学としての学修成果の検証や学生への活用促進をおこなうことが望まれる。

II 概評

① 各学部・学環のカリキュラム・ツリーに示したディプロマ・ポリシー、各到達目標、科目群は適切に関連しているか。

各学部・学環のカリキュラム・ツリーには、それぞれのDPが知識・能力ごとに記載されている。また、到達目標に対応する学部・学環のDPの番号が併記されており、各到達目標がどのDPの知識・能力を習得するための具体的目標なのかが分かるようになっている。また、カリキュラム・ツリーにおける科目群は、到達目標に紐づいて設定されている。

このように、各学部・学環のカリキュラム・ツリーに示したDPと各到達目標、各到達目標と科目群は概ね適切に関連している。

ただし、ひとつの到達目標に複数のDPが対応していたり、到達目標間で対応するDPが重複したりしていること等から、全体の関連はやや複雑になっている。

② 学修成果可視化の精度向上への効果が期待できるか。

学生の学修成果可視化の取組として、カリキュラム・ツリーに示した各到達目標の達成度をあらわす「学修度レーダーチャート」を従前より作成されている。

今回新たに、現実的な履修状況を仮定し、レーダーチャートの対象科目の母数(分母)を設定し直すことで、レーダーチャートの歪さが解消され、学修成果がバランスよく表示される見込みである。

さらに、学修の目安となる到達目標ごとの目標値を設定し、レーダーチャート上に表示することで、学生が自身の学修成果を理解し、履修に活用していくことが期待される。

ただし、「学修度レーダーチャート」はDPに掲げる各知識・能力の修得状況そのものではない点に留意が必要である。

また、「学修度レーダーチャート」の到達目標に対応する科目群は、履修要項に記載されている卒業要件や科目表の区分とは異なるため、学生がレーダーチャートの見方や設計意図を十分に理解できるような取組を続けることが望まれる。

以上